

発電所敷地内における空气中放射性物質の核種分析結果

参考値

(データ集約：10/27)

採取場所	福島第一 西門		福島第二 MP - 1 (参考)				炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成23年10月26日 7時00分～12時00分		平成23年10月26日 9時29分～9時39分				
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-			
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-			2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-			3E-03

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

. E- とは、. × 10⁻ と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

福島第一 西門における検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約1E-7Bq/cm³、Cs-134が約3E-7Bq/cm³、Cs-137が約3E-7Bq/cm³。

粒子状のI-131が約6E-8Bq/cm³、Cs-134が約2E-7Bq/cm³、Cs-137が約2E-7Bq/cm³。

福島第二 MP - 1 における検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約2E-6Bq/cm³、Cs-134が約3E-6Bq/cm³、Cs-137が約3E-6Bq/cm³。

粒子状のI-131が約1E-6Bq/cm³、Cs-134が約2E-6Bq/cm³、Cs-137が約2E-6Bq/cm³。

発電所敷地前面海域における空气中放射性物質の核種分析結果

参考値

(データ集約：10/27)

採取場所	福島第一 沖合2～3km海上 1回目		福島第一 沖合2～3km海上 2回目		福島第一 沖合2～3km海上 3回目		福島第一 沖合2～3km海上 4回目		炉規則告示濃度限度 (Bq/cm ³) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成23年10月25日 15時45分～16時15分		平成23年10月25日 16時16分～16時46分		平成23年10月25日 17時01分～17時31分		平成23年10月25日 17時35分～18時05分		
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	ND	-	3.9E-08	0.00	ND	-	3E-03

NDとは、 $< 1.0 \times 10^{-2}$ と同じ意味である。
 その他の核種については評価中。
 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。
 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。
 検出限界値は次の通り。
 I-131が約3E-8Bq/cm³、Cs-134が約4E-8Bq/cm³、Cs-137が約4E-8Bq/cm³。
 ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。
 本測定は、粒子状の空气中放射性物質の核種分析を行った結果である。